



Book Review

評者:興梠清美

東京慈恵会教務主任養成講習会教育責任者

学習指導案ガイドンス

看護教育を深める授業づくりの基本伝授

著:池西静江・石束佳子・藤江康彦/定価:本体2700円+税

発行:医学書院/TEL:03-3817-5657



授業づくりの先達が導く、学生に気づきの愉しさを届ける手引書

授業の設計や準備・実施は、看護教員に求められる教育実践能力の鍵である。教育のやりがいを感じられるのが授業であると同時に、それは多くの教員の悩みや課題でもある。とくに3年目までの新任教員の80%が「授業に困難や負担」を感じているという調査結果も示されている。また中堅・ベテランの多くも、時代の変化のなかで様変わりしている学生に対し、教員主体で何を教えるかだけでなく、学生が何を学びたいのかを軸にした教育方法を模索して悩んでいる。そんな現場の助けになるのが本書である。著者たちの経験知に基づいた学習指導案づくりのコツや、授業で用いられている実例およびアクティブラーニングの実践などが多数紹介されている。

本書は3章構成である。第1章「学習指導案からはじめる授業づくり」では、授業の成否を分ける学習指導案(授業づくり)の基本となる知識が整理され、具体例を示しながら紹介されている。第2章「学習指導案に基づく授業の実践」では、教材でもあり教員ともいえるワークシートを使った著者たちの実際の授業づくりが紹介されている。第3章「対話——教育学からみた看護の授業づくりと新時代の学び」は、教育学の専門研究者を交えて、前章までに紹介された授業づくり、学習指導案、ワークシートについての学びを深める内容となっている。また序章の用語解説や、教育学の立場から解説されているcolumnは、

本書をより深く理解する助けとなる。さらに、付録のワークシート集は、ひと目で授業の構造が見渡せるようになっており、学習のプロセスや、その時どきでどういった知識が必要であるかが構造的に示されている。こんな授業が実施できたら、学生は授業に没入し、「気づいた、わかった、楽しい!」と感じられるのではと思える内容である。第3章で語られている、学生と教員にとってのワークシートの意義をふまえた上で、それぞれのワークシートを見るとその意味がさらに理解できる。

著者代表の池西先生は、その長年の経験値に裏づけられた考え方や実践力が刺激的で、かねてより驚かされてきた。するどいアンテナで看護教育の質向上に活用できるものをキャッチすると、実践に取り入れながら修正し、成長させて整えていく。現場改善を最優先に考える往還的な実践者である。さらには、その成果を後進に惜しみなく提供される先達でもある。多くの“引き出し”をもつ著者ならではのと思う。また、ともに実践し、発展をめざされている共著者の存在も大きいことが推察できる。本書は、学生に納得と達成感を与える授業をしたいという願いをもち、悩むすべての看護教員それぞれのニーズに応じた手引書となっている。活用を勧めたい。